



史上最年少プロ棋士

ふじ い そう た
藤井 聡太 さん

(名古屋大学教育学部附属中学校2年)

9月3日に東京都で行われたプロ棋士への最終関門「第59回奨励会三段リーグ」で、瀬戸市に住む中学2年生の藤井聡太さんが13勝5敗の成績で1位となり、プロ入り(四段昇格)を決めました。14歳2か月でプロ棋士となり、史上最年少記録を62年ぶりに塗り替える快挙を成し遂げました。

■ 将棋を始めたきっかけ

藤井さんが将棋と出会ったのは5歳のことです。将棋を始めてすぐにその魅力にはまり、才能を現したといいます。「祖母にルールを教わり、すぐ祖母と指すようになったんですが、祖母が初心者で僕がすぐに勝つようになったので、どんどんのめり込みました。その後はしばらく祖父と指していたんですけど、祖父にも勝つようになって、地元の教室に入りました。」

■ プロへの道

将棋教室に入ってさらにめきめきと腕をあげた藤井さんがプロになることを意識したのは、小学3年生の時だ

そうです。「全国小学生倉敷王将戦という大きな大会で優勝することができて、その時にプロを目指そうかなと思いました。」その後、小学4年生から奨励会に入り、月に2回大阪で対局をするようになりました。「3級の時に6連敗してしまった時は苦しかったですけど、概ねまずまずのペースで来られたかな。負けると本当にすごく悔しいんですけど、そこはなんとかうまく昇華してやっていくしかないです。」と話してくれました。

また、詰将棋が得意で、普段から毎日詰将棋を解いているそうです。12歳の時に、プロも参加する詰将棋の解答選手権で優勝し、最年少記録を打ち立てました。さらにその翌年も優勝し、現在2連覇中です。

■ 最年少プロ棋士に

三段リーグに勝ってプロ入りを決めた瞬間は「すぐには実感が湧かなかったんですけど、やっぱり、ほっとしたっていうのが大きいです。周囲の期待もかなりのものでしたがあまり意識せずに、自分の実力を出し切ることが第一。」と考えていたそうです。

10月1日からは正式にプロになり「気を引き締めてしっかりしなければいけない。」と感じているそうです。プロになると将棋を指す時間が長くなるのはもちろんのこと、公式戦で対局料や賞金を獲得したり、将棋の普及のためにイベントで対局をしたりといった活動を行うこととなります。藤井さん自身、プロになって変わったことはと聞くと「ずっと将棋が好きでやってきたので、これからもやっていくことは変わらないです。」と力強く答えてくれました。

■ 将棋の魅力

藤井さんが思う将棋の魅力はどこか尋ねました。「将棋を始めたころはただ単純に、勝つのが楽しいっていう感じだったんですけど、最近はやっぱり、考える楽しさっていうのをすごく感じています。対局中に難しい局面で、最善手を探すのがすごく楽しいですね。」

休みの日も将棋のことを考えているという藤井さん。将棋を心から楽しんでいるということが伺えます。

■ 今後について

今後の目標を聞くと、「まずはもっともって実力をつけて、タイトルを狙える力をつけたい。将棋のタイトル戦は全部で7つありますが、やっぱり名人と竜王が将棋界で一番格の高いタイトルですので、その2つを特にとりたいです。」と意気込みを語ってくれました。「過去に中学生でプロになった方は偉大な方ばかりなので、並べるように頑張りたいです。」と語る藤井さんに、今後ますます注目が集まりそうです。



昨年12月19日 庁舎完成イベントに参加してくれた藤井さん